

普及活動情勢報告（平成31年6月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

～すすめ農福連携！～「高知市農福連携研究会」を発足



農家への理解をどうやって
深めて行くか？検討

6月11日、普及所に農業関係機関9名と福祉関係機関9名が集まり、「高知市『農福連携』に係る打ち合わせ会」を開催しました。普及所が立てた将来構想・活動計画（案）を検討した後、農業と福祉に分かれて、活動の進め方や課題などを詰めるグループワークを行いました。

その結果、今年度は①労働力不足の可視化 ②農福の相互理解に重点的に取り組むこととし、7月1日付けで「高知市農福連携研究会」を発足することになりました。普及所はこの事務局を担い、先頭に立って農福連携を進めていきます。

高知大学版アグリスクール及び高校生に向けてキュウリの魅力を発信



高知大学生に向けてPR

5月30日、高知大学物部キャンパスにて農林資源環境科2回生85名を対象に高知市のキュウリ新規就農者の体験談、新規就農者の受入体制等について講演しました。また、6月18日、春野高校4名にガイダンスを行いました。農家の体験談では、農業を選んだ理由、日頃心がけていること、自分の目標などを学生に熱心に伝えました。高知県農業の情勢やキュウリ産地提案書に基づいた就農までの流れでは、キュウリ以外の産地提案書はあるのか（大学生）・次世代型施設のデメリット（高校生）はなにかなど、質問がありました。

今後、高知農業改良普及所は、担い手への情報提供や新たな掘り起こしに向けた取り組み支援を続けて行きます。

高知市土佐山・鏡地区で集落営農の啓発

～地域の担い手確保に向けて～



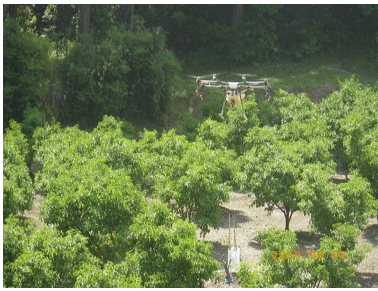
高知市鏡地区での啓発

普及所は、6月13日、14日高知市鏡及び土佐山地区において、集落営農の啓発を行いました。中山間地域等直接支払制度の説明と合わせて行ったもので、合計32地区36名の農家が出席しました。

普及所から、地域課題を解決する手段としての集落営農を説明するとともに、次世代の担い手を確保するための県からの支援（親元就農、産地提案書等）について説明しました。参加者からは、共同利用機械等の事業活用についての質問がありました。

今後普及所は、集落営農と担い手確保、農地の有効活用等の啓発を行います。

高知市初のドローンによるユズ園の航空防除



ドローンの航空防除

6月5日、高知市土佐山地区のユズ園で高知市ゆずスマート農業検討協議会主催によるドローンの航空防除試験が実施され、生産者など20名が参加しました。これは、農林水産省の次世代につなぐ営農体系確立支援事業を活用したものです。

普及所は、この防除試験に計画段階から参画し、試験園の決定、ドローン操縦士や園主との調整、試験日の決定、薬剤付着の調査などを行いました。このドローン防除は、同じ園であと3回実施し、病害虫防除効果を評価する計画です。

今後も普及所は、協議会とともに、スマート農業を取り入れた、ユズ栽培管理体系の確立に取り組んでいきます。

キュウリ黄化えそ病防除のために ～天敵勉強会の開催～



天敵勉強会の様子

6月12日、J A高知県春野営農経済センターで天敵勉強会が開催され、生産者13名が参加しました。

J Aから「きゅうり天敵利用指針」としてタバコカスミカメの温存方法や放飼方法等の説明があり、普及所からはタバコカスミカメ、スワルスキーカブリダニの生態的特徴と天敵を導入した場合の防除効果について、試験事例をもとに情報提供しました。

生産者からは、天敵導入促進のためにはより一層の情報提供が必要であることなど、放飼方法に関する活発な意見交換がなされ、地域一丸となって黄化えそ病対策に取り組む必要性を再認識する場となりました。

普及所は今後も、関係機関と連携して、黄化えそ病の根絶を目指して支援を行っていきます。

露地ショウガの安定生産に向けた研修会が開催されました



研修会の様子

6月11日、J A高知市マル朝生姜生産組合が支部合同研修会を開催し、組合員25名が参加しました。

普及所からは、土壌病害対策として低濃度エタノール土壌還元消毒やドローンによる生育診断について報告しました。さらに貯蔵ショウガの腐敗対策について情報提供し、実証試験への参加協力を呼びかけました。生産者の関心は高く、「生育中病気の発生がなかったが、貯蔵中の腐敗が多く困っていた。実証試験をしてみたい」などの声が挙がりました。

今後、普及所は、生産組合・J A等と連携して課題解決に向けて、活動支援をしていきます。

ナスの現地検討会で積極的な意見交換！



真剣に資料を読む参加者

5月31日、JA高知県春野茄子部会にて現地検討会が実施され、ナス、米ナス農家9名が参加しました。普及所からは、管内で黒枯病害の発生があったことから、その発生要因、対策事例等を報告しました。生産者からは質問が多く出され、資料を見ながら生産者同士でも積極的な意見交換がされるなど活発な会になりました。

普及所は、最後まで安定した栽培管理が行えるよう巡回などで情報提供を行います。

伝統野菜「牧野野菜」の価値をもっと高めるための取り組みを考えよう！



積極的に情報交換する参加者

6月8日、三谷公民館において中山間地域の「Team Makino」会員農家とスーパーのバイヤー9名で出荷反省会を行い、普及所は開催及び運営支援を行いました。昨年度の反省として播種や定植が遅れたことが挙げられ、今年は早くから播いて販売を前進化・長期化することが共有されました。スーパーからも「牧野野菜」認知度向上のために試食販売等の提案があり、農家からは「やってみよう」という前向きな意見が聞かれました。

普及所では、今後も伝統野菜の取り組みに対する支援を行っていきます。